

講義名	教養特講（世界の中の日本）/教養総合（世界の中の日本）			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この講義の目的は、世界の中における日本の特徴を捉えるために、様々な視野で検討することにある。今、世界はめまぐるしく動き、地球規模で展開している。そこで、講義では、特に日本が位置するアジア地域に注目し、アジアの国の特色を取り上げながら、日本との関連性を紹介する。また、新聞記事を紹介しながら、今の日本に起きている事柄や日本の特性を検討していきたい。一方、講義のテーマについて、受講生が会話をし、意見交換をする機会を設けることで、日本に関わる様々な考え方を共有する時間を設けたい。

到達目標

学生が、講義で学んだ国の特性(歴史、文化など)を理解した上で、日本がどのような国であるのか、自分の言葉で表現できるようになる。また、受講生が互いに会話をを行うことで、「話す力」や「聞く力」を養う練習をし、テーマに対する理解を各自で深めることができるようになる。

提出課題

講義の各回のテーマについて、学んだことや感想・考えを毎回、授業内にレポートとして提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義内容に関する感想文は、提出後に次の回の講義などで、日本の地域性を考えるための一つの事例として紹介する。

評価の基準

平常点（毎回の講義で記入してもらった課題のレポート15回分、100点）により評価する。

履修にあたっての注意・助言他

予習として、各自が調べた内容や大事だと思う箇所はメモをとること。教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

<プリント資料>
各回毎、プリント資料を配布する。
プリント資料は無くならないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜、紹介する。

授業計画

講義の進め方の詳細は、第1回の講義で説明する。

- 回 授業計画
- 1 世界の中の日本とは
- 2 アジアの中の日本 「フータン」
- 3 アジアの中の日本 「インド」
- 4 アジアの中の日本 「タイ」
- 5 アジアの中の日本 「日本」日本の国立公園：伊勢志摩
- 6 アジアの中の日本 「日本」世界文化遺産：富士山
- 7 アジアの中の日本 「日本」世界文化遺産：白糸の滝
- 8 アジアの中の日本 「日本」有形文化遺産：和食
- 9 アジアの中の日本 「日本」無形文化遺産：和紙
- 10 アジアの中の日本 「日本」日本遺産を知る
- 11 アジアの中の日本 「日本」日本遺産：飛騨匠の技
- 12 アジアの中の日本 「日本」日本遺産：日本茶（京都の宇治茶）
- 13 アジアの中の日本 「日本」日本の伝統的工芸品：俳句
- 14 アジアの中の日本 「日本」オリンピック・パラリンピック
- 15 アジアの中の日本 「日本」まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある講義のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。

復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を課題用紙に記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。

(2) 知識を知能に転換することができる。論理的思考力を持った人材

- ・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
- ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
- ・現象や事象のなかに隠れている問題点やその原因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
- ・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材

- ・他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
- ・他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる
- ・自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる
- ・他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義はプリントを用いて進める。毎回、受講生が各自で自らの考えを整理し、まとめた考えを用紙に記入する時間を設ける。また、受講生が会話をを行う機会を設けることがある。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

この講義は、教室で「受講生同士が会話をし」機会を設ける時間がある。会話を通じて、互いの考えを共有しあう機会になれば有り難い。日本について、まずは各自の身近な事柄から関心を持ってもらいたい。そして、「各自が考える日本の魅力」を探る機会にってもらいたいと思う。